



1「長年のつながりと郷土愛の賜物」と話す吉川英雄会長(中央) 2「地域の人の支えがあって、ここまで続けてこれました」と本間直子さん 3生き生きサロン「和やか会」 4女性のための健康学習会。味噌汁の塩分濃度も測定 5男性のための料理教室。厚焼き玉子づくりに挑戦 6暑かった草刈り 7防災訓練。ハザードマップで危険な箇所を確認 8雨の日にウォーキングで異世代交流 9頓原小学校児童の田植え体験 10首都大学東京名誉教授を招いて講演を開催 11さあ、踊ろうか 12踊って、笑って 13健康祭り20回を祝うパフォーマンス 14みんなでおいしいごはん

自分たちの地域は自分たちの手で

頓原花栗地区の全世帯が加入する「健康で安心して住める花栗振興会」。約30年にわたり、行政に頼らない健康で安心して暮らせる地域づくりを計画・実践してきました。この度、その業績が認められ、第一生命(株)が主催する「第72回保健文化賞」の受賞者に選ばれました。



健康で安心して住める 花栗振興会が保健文化賞に輝く

映える保健文化賞。時代ごとの課題に継続的に取り組む人たちに

戦後間もない昭和25年、日本の保健衛生向上のために「保健文化賞」が創設されました。当初は結核や栄養不足など、社会的に喫緊の課題に取り組む個人・団体を表彰。近年は、生活習慣病対策、高齢者や障がい者への福祉、海外医療や疾病対策など、その時代のさまざまな課題に、継続的に取り組む個人・団体に贈られています。

健康づくりから地域づくりへ

健康で安心して住める花栗振興会の起源は平成2年。旧頓原町の「健康な地域づくり」の重点地区としての取り組みが発端です。当時はどちらかという行政主導の取り組みだったよう

ですが、「花栗健康づくりの会」の発足(平成4年)を機に、住民主体の取り組みに。そこから「健康づくり」を柱に、みんなで話し合いながら取り組みを進めてきました。

取り組みのテーマは、「食生活の改善」「食育」「運動」に始まり、「住みよい環境づくり」「地域の伝統文化の継承」「農地の保全・活用」「地域活性化」へと拡大。「今は、地域での生活のことすべてをひっくりかえり、考えるようになりました」と事務局の本間直子さんは言います。

小さく楽しく「コツコツと

当時、保健師として「健康づくり」に日々向き合っていた本間さん。そんな中で始まった花栗の取り組みに、期待と不安を募らせていたようです。本間さんは、これまでをこう振り返ります。「健康でいることは目的では

なく、より良い人生を送るための手段です。なので、華やかな行事で盛り上げるといっても、小さくても楽しい行事をコツコツと続けてきたという印象です。その一つが、花栗健康まつり。これまでに23回開催していて、今では花栗の財産です。

これからもコツコツと楽しみながら、新しい花栗をみんなで作っていききたい。そのためにも町内外の地域と交流し、学びを深めていきたいと思います」

